

2023年度

## 『いちだい地域共創プロジェクト』Q&A

2022/9/1

### 活動テーマの募集対象者・プロジェクト構成について

【Q1-1】 どのような団体が応募できるのか？

⇒広島広域都市圏及びその周辺地域で地域課題に取り組む地域団体です。

【Q1-2】 プロジェクトの実施主体は誰になるのか？

⇒地域団体です。

マッチングが成立した場合、大学の教職員等が活動をサポートします。

【Q1-3】 地方自治体と協力してやりたいが可能か？

⇒可能です。当該自治体と相談の上、テーマを提案してください。

【Q1-4】 団体の中に企業が入っているが応募可能か？

⇒可能です。ただし、活動内容は、参加企業の営利を目的とするテーマ設定は認められません。

【Q1-5】 1人で地域活動を行っているが、応募可能か？

⇒プロジェクト実施後の波及効果等を考慮し、複数人で構成される団体からの提案を採択予定です。

### テーマの設定について

【Q2-1】 1年間では成果がでないテーマの提案をしたい。

⇒最長3年を限度に複数年にわたる事業になるテーマの提案を受け付けます。

ただし、テーマ応募は単年度ごとに行ってください。

※2年目以降に不採択となる場合もあります。

【Q2-2】 提案したいテーマが対象となる事業かどうか分からない。

⇒地域課題解決のために大学と協働することで、よりよく取り組みようかをご検討ください。

テーマの設定等の事前相談を受け付けていますので、詳しくは社会連携センターにご相談ください。

本学は国際学部、情報科学部、芸術学部の3学部、そして大学院として国際学研究科、情報科学研究科、芸術学研究科、平和学研究科を有する総合大学です。

【Q2-3】 実施方法も考えて応募したほうが良いか？

⇒具体的な実施内容については、本学教職員・学生とマッチング後に共同で課題解決の方法を検討し計画書を作成します。テーマ応募時は、解決したい地域課題についてご記入ください。

## 【Q2-4】具体的にどんなテーマで応募したら良いのか？

⇒以下の例示を参考にしてみてください。

No.	テーマ	現状	求める成果
①	地域内に居住する外国籍の人達との交流	交流がない	交流ができ、困った時に助け合える関係になる
②	地域の魅力や賑わいづくり	コロナで行事が実施できない	対面でなくても実施できる環境になる
③	高齢者の体力づくり	集会所等での活動ができず、運動できない	自宅に居ながら、地域の人とつながり、一緒に体操ができる
④	地域の危険個所の情報共有	地域内の危険個所の共有ができていない	地域の誰もが、危険個所の情報提供できるようになり、共有できる
⑤	空地のごみ問題	空地への不法投棄が目立つ	不法投棄しにくい空間にする
⑥	地域の魅力再発見	地域保有の観光資源があるが知られていない	保有している観光資源が周知されるようになる
⑦	地域文化、芸能の衰退を防ぐ	地域で受け継いできた芸能の後継者がいない	地域芸能の認知度を向上させる

(※例示ですので、必ず成立を約束するものではありません。)

## マッチングについて

### 【Q3-1】マッチングとは何か？

⇒課題テーマを提案いただいた地域団体と協働して課題解決に取り組む本学教職員・学生を見つけることです。

### 【Q3-2】マッチングイベントは何をするのか？

⇒応募団体から課題についてのプレゼンテーションをしていただき、応募団体と本学教職員・学生の意見交換を行います。

「oVice (オヴィス)」を使用し、オンラインで実施する予定です。

oVice については以下の URL または、右のQRコードからご確認ください。

<https://ovice.in/ja/>



### 【Q3-3】オンラインでの参加ができないかもしれない

⇒オンライン参加ができるようにサポートいたします。

社会連携センターまでご相談ください。

ご自宅等からのオンライン参加にご不安がある場合は、大学に来ていただいた上でのオンライン参加も可能とする予定です。

## 事業対象経費について

【Q4-1】プロジェクトの参考になる地域への見学や、地域と大学間の交通費は経費として認められるか？

⇒対象の経費となります。

【Q4-2】パソコンの購入はできるか？

⇒原則、備品（パソコン、タブレット型コンピュータ、デジタルカメラ、ビデオカメラ、テレビ、録画機器）の購入はできません。購入が認められた場合でも、プロジェクト終了後は、広島市立大学に返却していただくこととなります。

【Q4-3】プロジェクトの経費でアルバイトを雇用することはできるか？

⇒できません。

プロジェクトメンバーで実行可能な計画を立案してください。

【Q4-4】芸術学部の学生に作品作成を依頼することはできるか？

⇒芸術学部の学生に作品製作を依頼する場合は、別途、団体において当該学生等への賃金等、負担をご検討いただく場合があります。

【Q4-5】作品の制作材料を購入することはできるか？

⇒できます。

【Q4-6】連携先の施設を利用する場合の利用代金を支出することはできますか？

⇒連携先への支払いにプロジェクト予算を充てることはできません。

## 採択後

【Q5-1】活動資金の支払いはどうしたらよいか？

⇒本学の助成金については、本学が執行手続きを行いますので、謝金、旅費、消耗品の支払い等の事務については、すべて大学がお手伝いします。